

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 36

2021年4月12日

会 長 中澤和夫
 事務局 〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138
 大阪市立大学英語教育開発センター 山本 修 研究室内
 tel.: 06-6605-3587 (研究室) / fax: 06-6605-3428 (共同研究室)
 Email: segu.office@gmail.com
 ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第27号刊行

『英語語法文法研究』第27号が2020年12月に刊行されました。第27回大会でのシンポジウム「否定と尺度と談話と一否定表現とその周辺」の論文3編のほか、4編の研究論文と2編の語法ノートが掲載されています。

◆第29回大会開催案内

英語語法文法学会第29回大会を下記の要領で開催します。

一昨年度より研究発表の応募方法が大きく変更されておりますので、後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時：2021（令和3）年10月16日（土）

第29回大会はオンライン方式を原則とし、可能な場合のみ、下記会場でハイフレックス方式での実施を検討しています。詳細については本学会ウェブサイトですべて追ってご連絡いたします。

会場：桜美林大学 新宿キャンパス
 (〒169-0073 東京都新宿区百人町3丁目23-1)
<https://www.obirin.ac.jp/>

順路（大学ウェブサイトより）：

- ・JR 山手線「新大久保駅」より徒歩8分
- ・JR 中央・総武線「大久保駅」北口より徒歩6分
- ・JR 山手線・西武新宿線・地下鉄東西線「高田馬場駅」戸山口より徒歩13分

今回のシンポジウムは「正しい英文解釈に必要な語法文法知識」をテーマとして準備中です。司会、講師は以下の通りです。

司会・講師 吉田幸治（近畿大学）

「伝統的英文解釈指導の功と罪—必要なことと不必要なこと—」

講師 岡田伸夫（関西外国語大学）

「文法構文とその変種の意味について」

講師 林龍次郎（聖心女子大学）

「否定と肯定の強さ—not very, barely/hardly/scarcely, by all means をめぐって」 [敬称略]

◆第17回英語語法文法セミナー

第17回英語語法文法セミナーを下記の要領で開催します。

日時：2021（令和3）年8月2日（月）

13時30分～17時30分

今回のテーマは、「日本語訳では理解できない英語のしくみ」です。司会と講師、各講師のタイトルは以下のとおりです。

司会・講師 西田光一（山口県立大学）

「英語の照応表現の選択のバリエーション」

講師 辻本智子（大阪工業大学）

「句動詞の表現力」

講師 松原史典（京都女子大学）

「倒置現象の意味と形式」

講師 盛田有貴（奈良女子大学）

「ことばや思考の引用を含む現象に隠れた意味と機能」 [敬称略]

Zoom によるオンライン開催を予定しておりますが、可能な場合のみハイフレックス方式での実施を検討しています。詳しくは後日、英語語法文法学

会ウェブサイトの「研究大会・セミナー」のページ (<http://segu.sakura.ne.jp/events.php>) に掲載予定です。参加申し込みの方法や参加費につきましてもこちらに掲載いたします。申込み締め切りは 7 月 24 日 (土) です。

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

◆第 21 回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長小西友七先生の寄付金を基金とした 第 21 回「英語語法文法学会賞」(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日までに出版された単行本が対象)について、応募がなかったため、該当者なしという結果になったことが第 28 回大会(オンライン開催)において報告されました。

◆第 22 回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第 22 回英語語法文法学会賞対象図書(他薦に限る)を受け付けております。対象図書は 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日までに出版された単行本です(ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全 10 巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください)。

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、fax あるいは郵便で 2021 年 5 月 10 日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容を email で事務局までお知らせください。

事務局：〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本
3-3-138
大阪市立大学英語教育開発センター
山本修研究室内 英語語法文法学会事務局
fax: 06-6605-3428 (共同研究室)
email: segu.office@gmail.com

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

第 2 条 学会賞は、前年度 4 月 1 日から翌年 3 月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」(以下「委員会」という)の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに 1 件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

(関係部分一部抜粋)

◆第 11 回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第 11 回「英語語法文法学会奨励賞」は、慎重審議の結果、該当者なしとなりました。

なお、第 12 回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年 7 月 10 日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第 2 条 奨励賞は、毎年 7 月 10 日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39 歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了 10 年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第 3 条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに 1 篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第 4 条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

本年 3 月下旬に開催した運営委員会(対面式を避けオンラインにて実施しました)において運営委員として以下の方の就任が承認されました(任期は 2021 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月末日まで)。

吉川裕介(京都外国語大学) [敬称略]

また、本年 3 月末日をもって、以下の方が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

梅咲敦子(関西学院大学) [敬称略]

◆運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長)。

大会実行委員会

◎濱松純司 ○大室剛志 林龍次郎 大竹芳夫
住吉誠 吉田幸治 出水孝典 [敬称略]

セミナー委員会

◎前川貴史 ○西脇幸太 金澤俊吾 五十嵐海理
[敬称略]

◆第 29 回大会研究発表者募集

第 29 回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください (今年の大会開催方式については未確定の部分があります。随時、学会ウェブサイト参照ください)。

なお、応募規定は一昨年から大幅に変更になっております。発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、それら書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との 2 段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

<研究発表応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2 名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 25 分以内(別に質疑応答が 10 分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4 判 32 字×25 行(文字の大きさは 12 ポイント)で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛 (segu.office@gmail.com) に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要な事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7 月 25 日 23 時 59 分(必着)とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500 字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2019 年 3 月 10 日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7 月 10 日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第 29 回大会語法ワークショップ発表者募集

第 29 回大会での「語法ワークショップ」の発表者を募集します。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください (今年の大会開催方式については未確定の部分があります。随時、学会ウェブサイトを参照ください)。

なお、一昨年度より語法ワークショップでの各自の持ち時間は発表 15 分と質疑応答 5 分の計 20 分となりました。また、先の研究発表応募規定と同様、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との 2 段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜語法ワークショップ応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は15分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):
A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。
 - ② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):
発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。
 - 4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②をemailに添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。
 - 4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会のgmailアドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。
(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。
5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方も、7月25日23時59分(必着)とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の4-2にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第28号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規定の第4項以下が2019年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

＜『英語語法文法研究』(第28号)の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に2本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各1本(計2本)、あるいは語法ノートのみで2本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは**34文字×31行、16枚以内**とする。語法ノートの場合、長さは**34文字×31行、6枚以内**とする。

6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。

① 「論文」・「語法ノート」の原稿 (MS Word ファイルまたは PDF ファイル)
冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない (ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。

② 執筆者情報 (MS Word ファイルまたは PDF ファイル)
論文題名、氏名 (ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、**email address** を明記する (共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと)。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月 (または、在籍中ならばその旨) を、このファイルに明記すること。(奨励賞の候補者は、39 歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了 10 年以内の学会会員に限る。)

なお、紙媒体については、①と②を、A4 用紙にそれぞれ 1 部印刷する。

7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。

- 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
- 例文の前後に 1 行ずつの空白行を設ける。
- 各節には見出しをつけ、節の前に 1 行ずつ空白行を設ける。
- 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
- 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
- 2 桁以上の数字は半角を用いる。
- 小説・論文の出典は下のように表記する。(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
- 注は脚注とする。
- 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。

8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の 3 つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二 (編) 『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京:

研究社.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田 勇 三 郎 . 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第 125 巻第 3 号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.

- 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
- 著者校正は 1 回とし、変更は字句の修正のみとする。
- 原稿料は支払わない。
- 応募書類の提出先
第 6 の①と②の電子ファイルは email に添付して、編集委員長宛に email (segu.paper@gmail.com) で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の紙媒体は、編集委員長宛*に郵送すること (「投稿論文在中」と朱記)。

*〒183-0011 東京都府中市白糸台 2-27-35

吉良文孝

(2019 年 8 月 6 日改定)

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第 28 回大会 (報告)

英語語法文法学会第 28 回大会は 2020 年 10 月 17 日 (土) より 10 月 23 日 (金) までの間、語法ワークショップ、研究発表が、発表原稿を大会特設ページ上で公開し、メールで質疑応答を行う形で開催され、活発な議論が行われました。発表者のみなさま、質問者のみなさまに改めてお礼を申し上げます。

語法ワークショップ

- 「Worry + that 節の記述的考察」
大野真機 (昭和大学)
- 「grow to be/ verb 構文と grow up to be/ verb 構文はどう違うのか？」
家口美智子 (金沢大学)

研究発表

- 「over-V に生じる非対格自動詞構文」
岩宮努 (大阪大学大学院)

2. 「主語名詞(句)を修飾する as 節とその文の特徴— NP_{subj.} as we know it VP 構文を中心に—」
佐藤嘉晃 (京都大学大学院)
3. 「知覚動詞の受動態補文における準動詞の選択制限について」
村岡宗一郎 (日本大学大学院)
4. 「クジラの公式」とは何か—上位構文を含めて再考する」
明日誠一 (青山学院大学非常勤)
5. 「現代英語における as ... as possible の振る舞い—比較表現の重なり as ... as ... as possible—」
松田佑治 (立命館大学)

◆2020年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入されました。どうぞよろしくお願いたします。(50音順。掲載希望者のみ。)

北原匠 (京都大学 大学院)

佐藤嘉晃 (京都大学 大学院)

高松龍 (東京学芸大学 学部生)

Patrick Maher (岩手県立大学)

村岡宗一郎 (日本大学 大学院) [敬称略]

◆2019年度会計報告(Apr. 2018-Mar.2019)

(第28回大会総会(オンライン)において承認されました)

(収入)		(以下、単位：円)
前年度繰越残高		3,239,823
会費		1,527,500
学会誌売り上げ		35,243
懇親会費		219,000
雑収入		143,206
計(1)		5,164,772
(支出)		
事務局費		22,108
通信費		195,248
旅費交通費		154,830
印刷費		116,980
人件費		30,000
会議費		13,955
消耗品費		13,523
雑費		3,226
雑誌製作費		990,842
大会運営費		353,654
計(2)		1,894,366
残高現在 [計(1)－計(2)]		3,270,406

◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、2013年4月1日より、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2020年度(2020年4月～2021年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は203円(ATMからは152円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学(院)名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト(<http://segu.sakura.ne.jp/>)の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

五十嵐海理『ことばとスコープ 2 否定表現』(シリーズ 英文法を解き明かす 第8巻)(2020) 研究社

◆終身会員

昨年の大会で終身会員制度が認められ、発足しました。該当する会員は、本学会HPの「学会規約」タブの中の「終身会員規定」の条件を確認したのち、本学会HPの「入会方法について」タブの中の「終身会員の手続き」をご覧ください。

編集後記

2020年4月より事務局長として学会の運営にかかわることになりました。2020年度は、全世界的なパンデミックにより、さまざまな方面に大きな影響が出ました。英語語法文法学会でも、大会をオンラインで開催し、語法文法セミナーが中止となるなどの影響が出ました。こうした先例のない事態に対応するにあたり、不手際も多く、会員のみなさまにはご迷惑をおかけすることもあったと思いますが、中澤会長、局長の補佐をしてくださっている西脇幸太氏、会計担当の吉川裕介氏、運営委員のみなさまのご協力を得て、なんとか運営することができました。この場を借りて、お礼申し上げます。

今年度は、大会もセミナーもオンライン方式を原則とします。しかし、可能ならば大会はハイフレックス方式、語法文法セミナーはオンライン、あるいはハイフレックス方式での開催も検討しています。詳しくは、随時、学会ウェブサイトにて連絡します。このような状況下であっても、なるべく多くの会員にご参加いただけるよう、全力を尽くしたいと思います。

いま第4波が来るかもしれないと危惧されていますが、今年度こそは、パンデミックが終息し、以前のように活動ができるようになることを望むばかりです。
(2021年4月12日 山本修)